

報告書(案)

令和4年度・令和5年度 草津市社会教育委員会議
学びを通じたボランティア人材発掘・育成
～若者の社会的活動への参加促進～

令和6年 月

草津市社会教育委員会議

(事務局：草津市教育委員会事務局生涯学習課)

目 次

はじめに	… 1
1 令和4年度「読書ボランティア人材養成講座」	… 2
2 令和5年度「読書ボランティア人材養成講座」	… 2～3
3 読書ボランティア人材養成講座の検証	
(1) 人材発掘に関する検証	… 4～5
(2) 人材育成に関する検証	… 6～8
4 まとめ	… 8
5 おわりに	… 9

資料編

はじめに

人生100年時代と言われる社会となり、これまで以上に生涯学習を通じた生きがいづくりが必要とされているところであるが、近年、少子高齢化の進行に伴う本格的な人口減少社会が到来し、地域や行政が抱える課題は多岐に渡り、単に個人的教養を高めるに留まらず、目的を持った学びである「リカレント教育」や「リスキリング」など、技術や知識を社会に還元することのできる学びが求められている。

こうした中、次代の地域活動を担う人材の確保が急務となっており、今期は「学びを通じたボランティア人材発掘・育成」をテーマとし、効果的に「若者の社会的活動への参加促進」を図るための手法について研究調査を行うことを目的に、モデル事業として「読書ボランティア人材養成講座」を開催した。



1 令和4年度 読書ボランティア人材養成講座

○日程 11月19日(土)、12月3日(土)、12月11日(日)

○時間 10:30~12:00

○場所 市立図書館3階大会議室

○受講者数

20代	1名	50代	5名	若者世代の参加者 25%
30代	0名	60代	4名	
40代	5名	70代	9名	
				計24名

【開催結果】

土日の午前中であれば、若者世代の参加者が見込めるという想定のもと実施したが、若者の参加者は少ない結果となった。

【問題点】

- ・日時の選択肢が少ない。
- ・会場が図書館であり、交通アクセスが良くなかった。
- ・全3回の講座であり、回数が多かった。
- ・広報、市HPの周知だけで、アピール不足だった。
- ・受講メリットのアピールができていなかった。
- ・申込み方法は電話、メール、FAXのみ。
- ・託児がなかった。

2 令和5年度 読書ボランティア人材養成講座

令和5年度は、前年の反省点を踏まえた改善を行い実施した。

内容	R4	R5	改善ポイント
①日時	休日午前のみ	平日午前 平日夜間 休日午前	コース選択可能・振替可能とした。
②開催場所	市立図書館	市民交流プラザ (南草津駅前)	交通アクセスが良い場所とした。
③講座回数	3日で修了	各コース2日で修了	期間短縮により参加しやすくした。
④広報	広報、市HP	広報、市HP、チラシ、メール、Xを活用	広報媒体を増やし、多様な方法で情報を届けた。
⑤チラシ	配布なし	市内公共施設、学校、商業施設などに据付	視覚的に情報を届けるチラシを用いた。
⑥メリット	アピールなし	チラシ、市HPで受講 メリットアピール	受講により得るものがあることをアピールした。
⑦申込み	メール、電話、 FAX	電子申請(QRコード) メール、電話、FAX	申し込みの手間を省き、申し込みやすくした。
⑧託児	なし	あり	子育て世代が参加しやすいようにした。

○若者の参加について（P5 グラフ①、グラフ②参照）

《平日午前コース》

・日程 10月27日（金）、11月10日（金） 10:00～11:30

・受講者数 30代 6名 50代 2名 70代 2名
40代 8名 60代 6名 計24名

若者世代の参加者14名（58%）

《平日夜間コース》

・日程 10月27日（金）、11月10日（金） 19:00～20:30

・受講者数 20代 1名 50代 2名
40代 5名 60代 2名 計10名

若者世代の参加者6名（60%）

《休日午前コース》

・日程 10月29日（日）、11月12日（日） 10:00～11:30

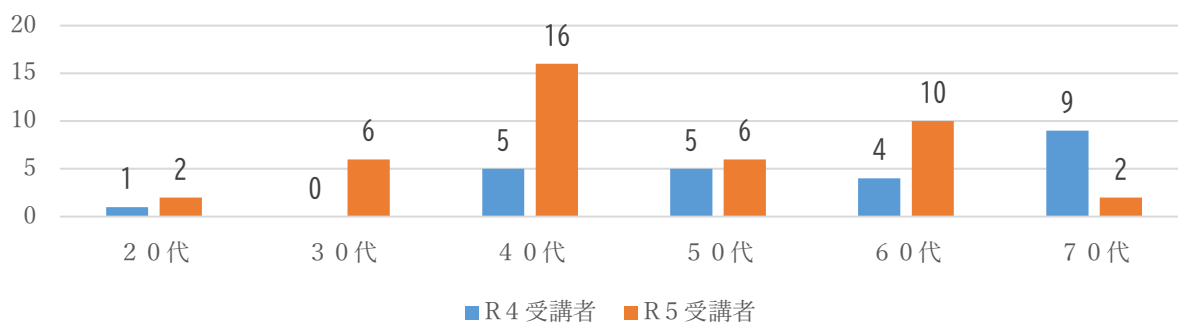
・受講者数 20代 1名 50代 2名
40代 3名 60代 2名 計8名

若者世代の参加者4名（38%）

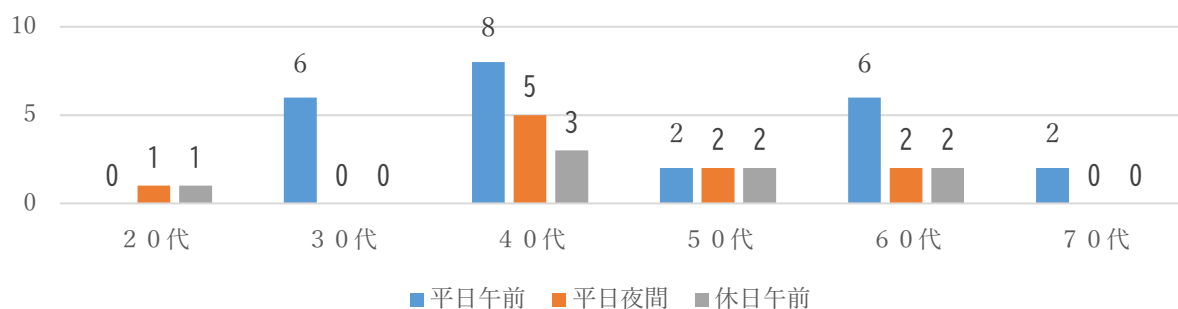
○令和5年度講座では様々な工夫を行い、計24名の若者の参加を得ることができた。

令和4年度	20代 1名	⇒	令和5年度	20代 2名
	30代 0名			30代 6名
	40代 5名			40代 16名
				計 6名
				計 24名

グラフ① 令和4・5年度 受講者数比較



グラフ② R5コース別受講者 42名



3 読書ボランティア人材養成講座の検証

(1) 人材発掘に関する検証

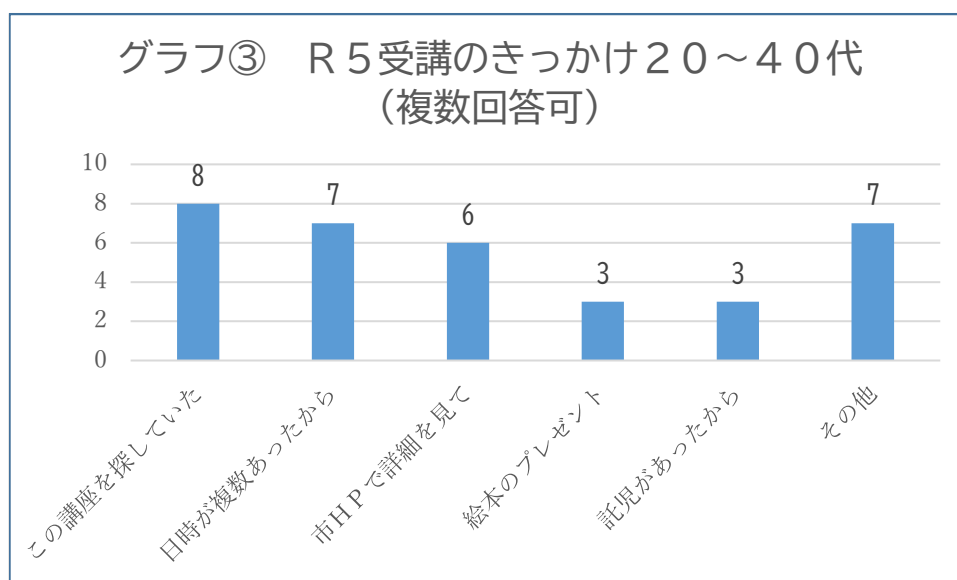
若者の参加者が24名に増加した要因を探るため、講座受講時に調査を行った。

・講座受講のきっかけ

受講のきっかけとして、この講座を探していたが8名、市HPで詳細を見て6名で計14名おり、積極的に学びの情報を求めている人が多かった。

次いで、日時が複数あったから7名、託児があったから3名と、受講しやすい環境を整えたことによるものが多かった。

また、絵本のプレゼントが3名と、受講のメリットを提示することで受講につながったものもあった。



○その他のきっかけ

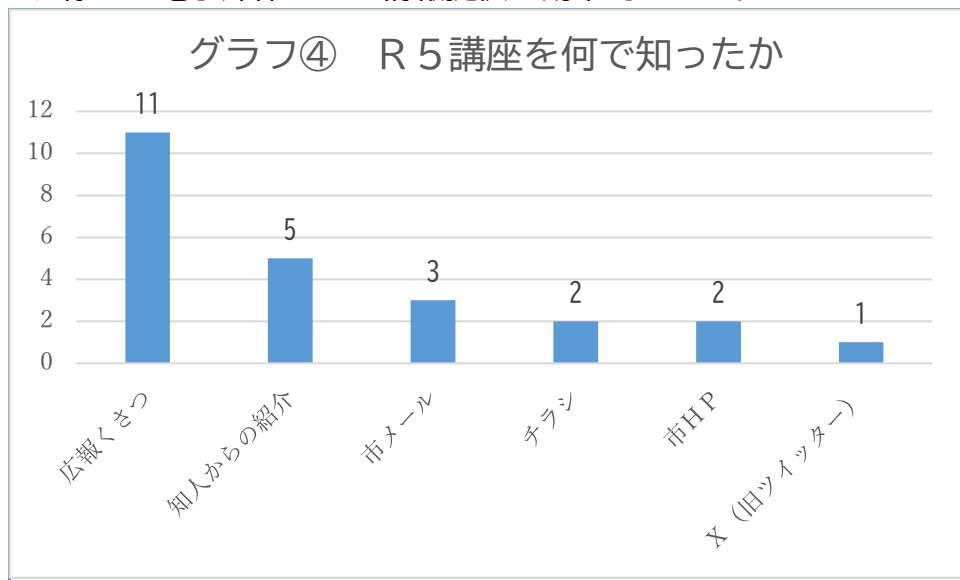
「読み聞かせ技術の向上のため」「スキルアップのため」(40代5名)

「1回の受講時間が短く、2回で終了し、受講しやすかったから」(40代)

「以前受講して、良かったから」(40代)

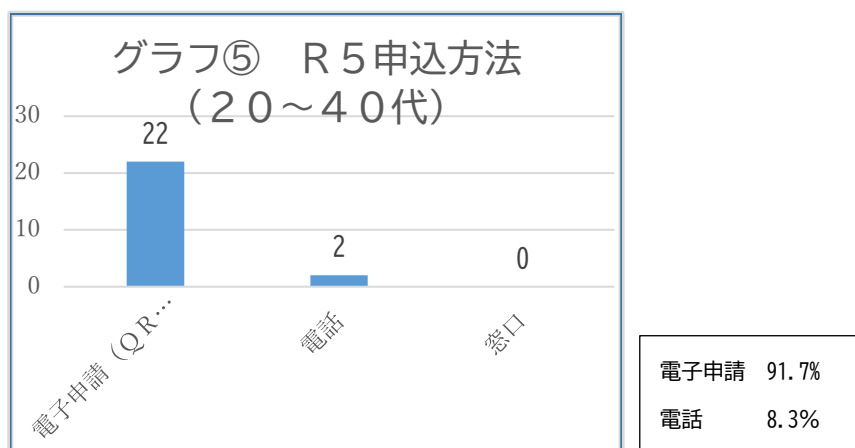
・講座を何で知ったか

広報くさつで講座を知った人が11名おり、広報誌は有力な媒体である。次いで、知人からの紹介で知った人が5名おり、横のつながりによる口コミも有力である。また、電子媒体である市メール3名、市HP1名、X1名の計6名であり、様々な電子媒体による情報提供も効果的である。



・講座の申込み方法

電子申請システム（QRコード）利用が22名で、電話が2名であり、ほとんどの人が電子媒体で申し込みを行った。



【参加者を増やすために考えられること】

- ・ 講座開催日時を選択肢を増やす。
- ・ 受講のメリットを市HPやチラシでアピールする。
- ・ 託児があることをアピールする。(20代1名 30代2名利用)
- ・ 広報くさつやSNS、チラシなど様々な媒体で広報する。
- ・ QRコードによる電子申請を採用する。

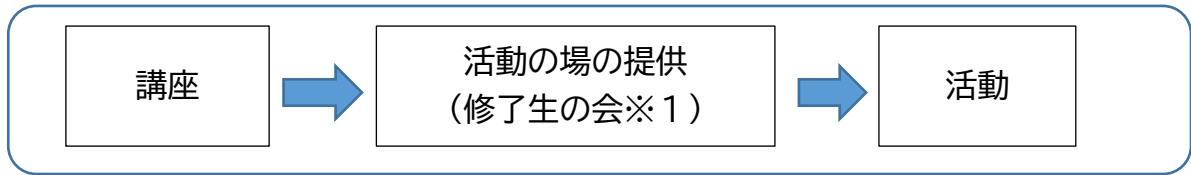
【検証の成果】

参加者を増やし人材を発掘していくためには、講座の開催日時は、豊富な選択肢を用意し、様々な媒体で講座情報や受講の利点、効果などを幅広く発信するとともに、託児の用意やアクセス良好な場所での開催など、若者が参加しやすい環境を整えることが大切であることがわかった。



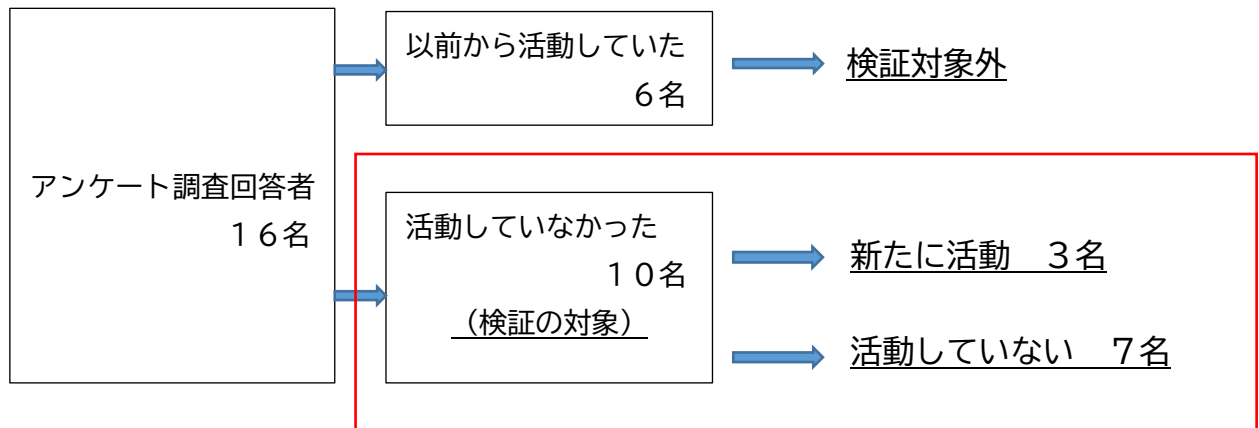
(2) 人材育成に関する検証

今期の取り組みにおける「人材育成」について、講座受講後、講座修了生を対象とした「修了生の会」の入会を通じて、活動の場の提供を行った。

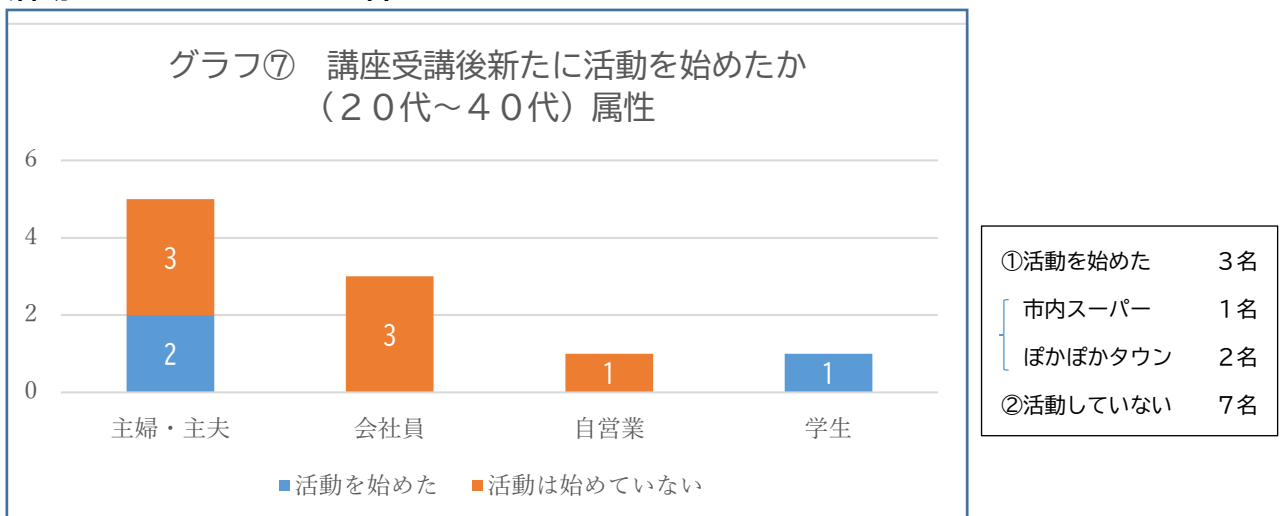


(※1) 修了生の会 (現在16名) : 読書ボランティア人材養成講座修了者・受講者を対象とした会で、LINEによりつながり、イベントや、読み聞かせ活動を行っている。

○受講後に活動につながる人数が少ない原因と、活動へとつなげる方法を探るために、20～40代の受講者を対象に事後調査を行った。(24名中回答者16名)



活動していなかった10名について



10名中3名が、「市内スーパー」と市役所さわやか保健センター3階の子育て支援施設「ぽかぽかタウン」での読み聞かせ活動を開始した。

・講座受講後に新たに活動を始めた3名の講座受講の目的（複数回答可）
（資料編P7 表2）

	スキルアップ	子どもに関わる活動がしたい	読み聞かせの活動のため	何かやってみたい	活動の幅を広げたい	地域での活動のため
主婦A（平日午前）	1	1	1			
主婦B（平日午前）	1				1	
学生（平日夜間）	1	1			1	
計	3	2	1	0	2	0

活動を始めた3名の回答には「何かやってみたい」という、不明確な回答はない。

・講座受講後に活動していない7名の講座受講の目的（複数回答可）
（資料編P7 表3）

	スキルアップ	子どもに関わる活動がしたい	読み聞かせの活動のため	何かやってみたい	活動の幅を広げたい	地域での活動のため
主婦A（平日午前）	1			1		
主婦B（平日午前）		1	1		1	
主婦C（平日夜間）			1			
会社員A（平日午前）	1	1	1		1	1
会社員B（平日午前）	1	1		1		
会社員C（平日夜間）	1			1		
自営業（平日午前）	1	1	1			
計	5	4	4	3	2	1

自身の「スキルアップ」の他、「子どもに関わる活動」や「読み聞かせの活動」のためといった回答もあったが、「何かやってみたい」という不明確な回答もあった。

・講座受講後に活動していない7名の活動できない理由（複数回答可）
（資料編P7 表4）

	都合が合わない	経験不足	仲間がいない	時間がない	始め方が分からない	無償だから	子どもが小さい
主婦A（平日午前）	1						
主婦B（平日午前）	1			1			
主婦C（平日夜間）		1	1				
会社員A（平日午前）	1						
会社員B（平日午前）				1		1	1
会社員C（平日夜間）	1						
自営業（平日午前）		1	1		1		
計	4	2	2	2	1	1	1

活動につなげるために、活動できない理由についての考察を行う必要がある。

【活動につなげるために考えられること】

・「都合が合わない」という場合

回答者4名のうち、3名は平日午前の受講者だが、平日午前の活動に参加しなかったため、曜日や当日の都合が合わなかったと考えられるため、時間、内容、場所を細分化し選択肢を豊富に用意することで活動へのハードルを下げる必要がある。

・「経験不足」・「始め方がわからない」という場合

活動を開始するにあたり、活動の予行演習の機会を提供し経験を積んでもらうなど、不安に感じていることを解消する支援を行うことが必要である。

・「仲間がいない」という場合

活動早期は、仲間意識を醸成する機会が必要であり、修了生が交流できる場を設け、つながりを作ることや、活動の情報交換を行うことが有効である。

・「時間がない」という場合

将来的に活動へとつなげるため、学ぶ意欲に応じていくことが大切である。

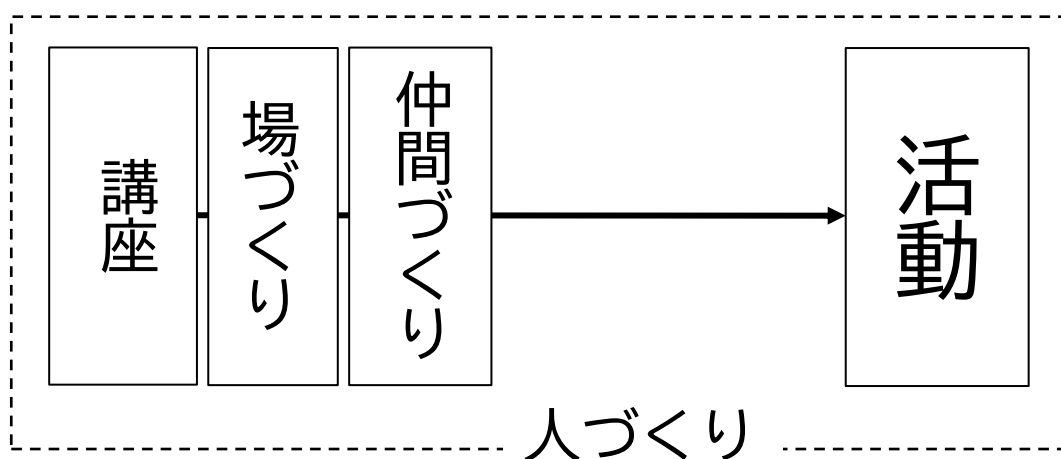
・「無償だから」という場合

報償や交通費など、ボランティア活動の有償化が必要である。

・「子どもが小さい」という場合

安心して子どもを連れていけるような、親子連れが活動しやすい環境を整えることが必要である。また、保育の一時預かりなどの活用も必要である。

【活動を始めていくために必要なものについて】



【検証の成果】

学びを活動へとつなげ、人材を育成していくためには、活動できない理由を的確に把握するとともに、不案要素を取り除くことが必要であることがわかった。

また、人づくりは、講座による学びを入り口として、場づくり・仲間づくりを通して活動へとつなげて行くプロセスにより進めていく必要があることがわかった。

4 まとめ

今期の取り組みでは、「読書ボランティア人材養成講座」を通して若者の社会的活動への参加促進を図ることを目的に研究調査を行い、人材発掘では講座の案内や内容の充実により、若者の受講を促進できること、また、人材育成では、講座を開催するだけでなく、仲間づくりや場づくり、練習機会の提供により、新たな活動者を生み出せることがわかった。今期の取り組みは、他の分野に応用することも可能であり、次代の地域活動を担う人材の確保に役立つものと考えられる。

今回の講座のような社会教育を通して得た技術や知識を、地域でのボランティア等の社会的活動につなげ、定着させていくためには、学びの入り口から活動に至る出口までの間、一人ひとりに寄り添った伴走型の支援を行い、活動へのハードルを下げ、活動の選択肢を広げることで、学んだ人材が安心して活動を開始できる「環境づくり」を行うことが大切である。また、意欲ある人材の「受け皿づくり」も、活動の継続には必要不可欠であり、活動者と地域のニーズが合致する場合には、両者の積極的なマッチングが望まれるところである。

取り組みを通じて、学びから人材を育成することの難しさがわかったが、今期の成果の活用により、一人でも多くの人材が育つことを期待し、今期の報告とする。

5 おわりに

令和4年・令和5年度報告書
草津市社会教育委員会議
草津市教育委員会事務局 生涯学習課
〒525-8588
草津市草津三丁目13番30号
Tel 077-561-2427 Fax 077-561-2488